

## 《早朝空腹時には低血糖を認めなかったインスリノーマ症例の組織学的検討》

(1) 対象:大阪大学医学部附属病院消化器外科、糖尿病・内分泌・代謝内科において、インスリノーマと診断され膵切除術をうけ、生体試料の保存に同意いただいた患者さん。陰性対照として、2007年4月1日から2013年3月31日までの間に膵疾患(膵癌、膵管内乳頭状粘液産生腫瘍、胆管癌、Vater乳頭部癌、漿液性嚢胞腺腫等)により膵切除術施行された、術前75g経口ブドウ糖負荷試験で正常耐糖能であった膵患者さん。いずれも当院消化器外科にて包括同意を頂いた方です。

(2) 研究機関名:大阪大学大学院医学系研究科 消化器外科学、内分泌・代謝内科学

研究責任者:大阪大学大学院医学系研究科糖尿病病態医療学寄附講座 小澤 純二

(3)目的:インスリノーマは空腹時の意識消失発作、発作時血糖が50mg/dL以下、ブドウ糖投与による症状改善を特徴とする膵ランゲルハンス島β細胞由来の腫瘍です。低血糖が出現するタイミングは空腹時が高頻度であり、食後のみに出現する症例は少なく、インスリノーマ症例において低血糖が空腹時または食後(糖応答性)に出現するタイミングの違いが何に起因するのかは明らかになっていません。異なる臨床的特徴をもつインスリノーマ症例の組織学的特徴を明らかにすることを目的としています。

(4)方法:年齢・性別・背景疾患・採血/画像所見・前治療に関する情報、手術時の組織学的診断などに関する情報を診療記録で収集します。当院消化器外科にて保存されているパラフィン固定あるいは凍結保存された膵切除検体を薄切し、HE染色にて形態学的変化を検討し、インスリン分泌・糖応答・食欲・腫瘍の性質に関連する蛋白質等を免疫組織染色にて解析します。研究実施期間は2025年3月までの予定です。

(5)意義:臨床症状との関連をみたインスリノーマの組織学的報告は少なく、インスリノーマ病態を解明する基盤となる可能性があり、本研究の社会的意義は大きいと考えています。

(6) 個人情報の取り扱い

研究対象者のプライバシーは厳重に守られ、また、その他人権に関わる事項についても十分な配慮がなされます。本研究の登録の際には氏名やカルテ番号等の個人情報の匿名化を行うため、研究対象者の名前や個人情報が特定・公開されることはありません。収集した臨床情報に関しては、個人情報の保護に細心の注意を払い、情報の漏洩、紛失、転記、不正な複写などがないように研究を実施します。

(7)問い合わせ先

大阪大学大学院医学系研究科 外科学講座消化器外科学

TEL:06-6879-3251 受付時間:9:00~17:00(祝祭土日・年末年始は除く)

大阪大学大学院医学系研究科 内分泌・代謝内科学

TEL:06-6879-3736 受付時間:9:00~17:00(祝祭土日・年末年始は除く)

(8) 研究対象者に研究への参加を拒否する権利を与える方法

本研究への情報提供を拒否される方は遠慮なく上記問い合わせ先まで申し出て下さい。